

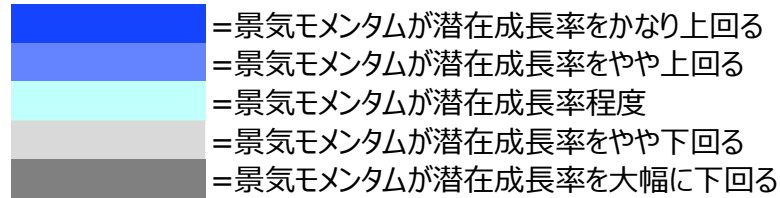
グローバル金融市場と グローバル株式市場の行方

木下智夫

グローバル・マーケット・ストラテジスト
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

グローバル経済：短期的にはイラン戦争の悪影響が顕在化。 その後は全ての主要地域での景気回復を見込む

グローバル：各地域の景気モメンタムの動き（イラン情勢が早期に落ち着くことを前提）

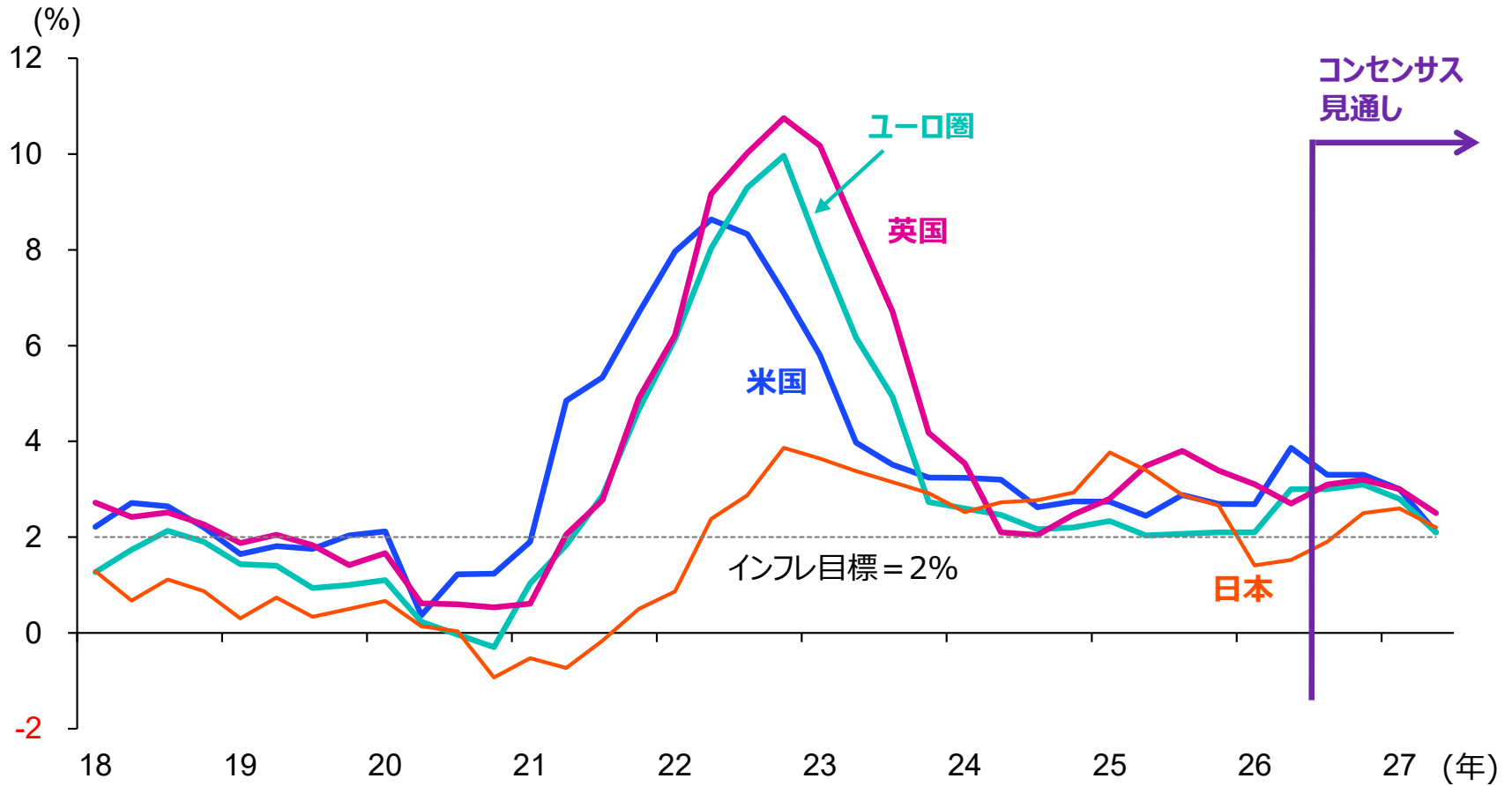


	25年 後半	26年 1-3月期	26年 4-6月期	26年 7-9月期	26年 10-12月期	27年 前半
米国						
欧州						
日本						
中国						
アジア新興国 (中国以外)						
アジア以外の 新興国						

（出所）インベスコ作成

イラン戦争の悪影響—ほぼ全ての国・地域でインフレ率が加速

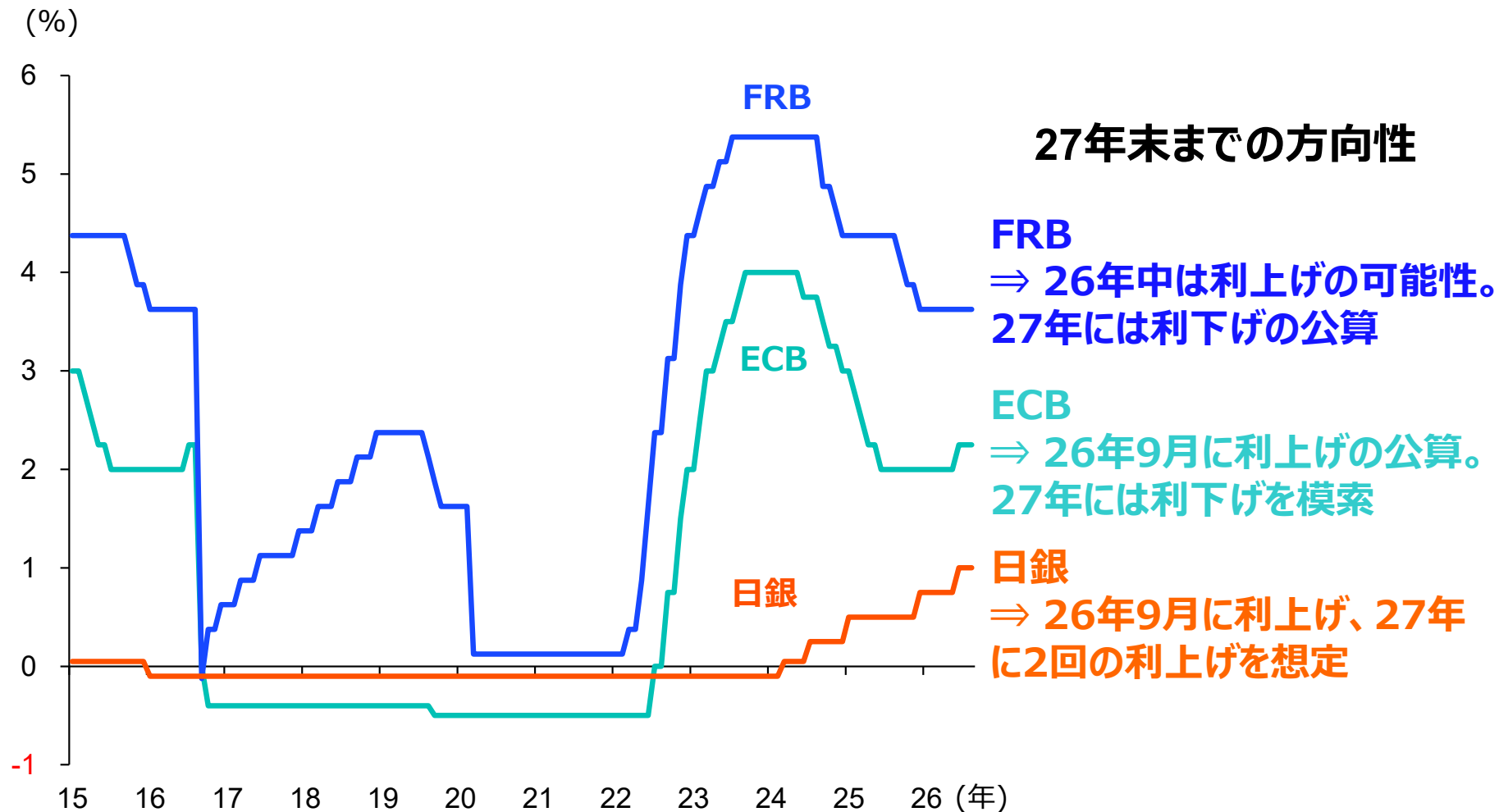
主要先進国・地域：消費者物価上昇率—実績とコンセンサス見通し



(注) 四半期データ。コンセンサス見通しはブルームバーグ調べによる8月14日時点の計数。
(出所) ブルームバーグよりインベスコが作成

先進国中央銀行は、短期的にはイラン戦争に伴うインフレへの対応を迫られる

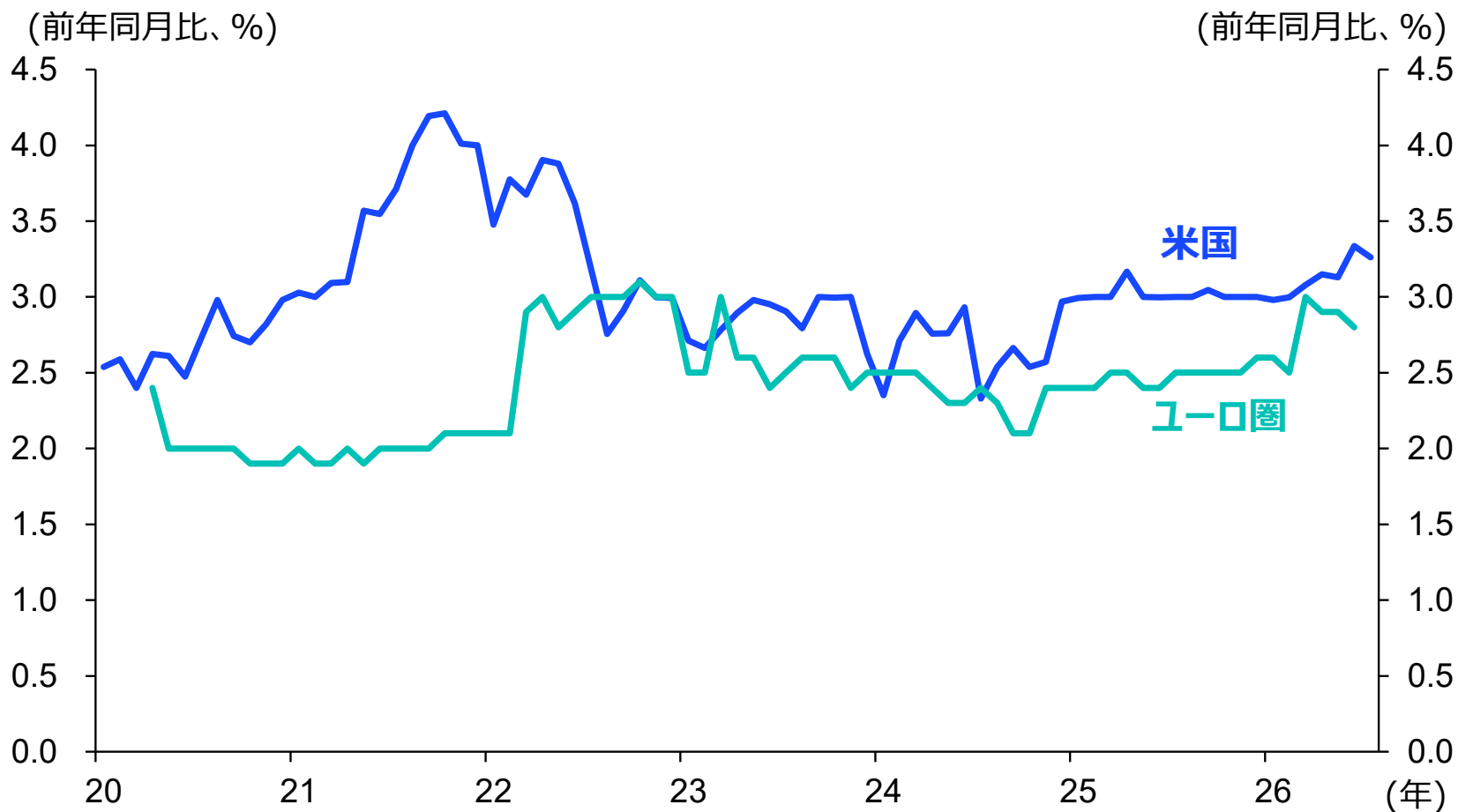
FRB、ECB、日銀の政策金利と今後の方向性



(出所) ブルームバーグよりインベスコが作成

仮にインフレ期待が大きく高まるなら中央銀行はタカ派化せざるをえない

米国・ユーロ圏：家計の期待インフレ率（今後3年間）



(出所) ECB資料およびCEICよりインベスコが作成

イラン戦争終結後を見据える

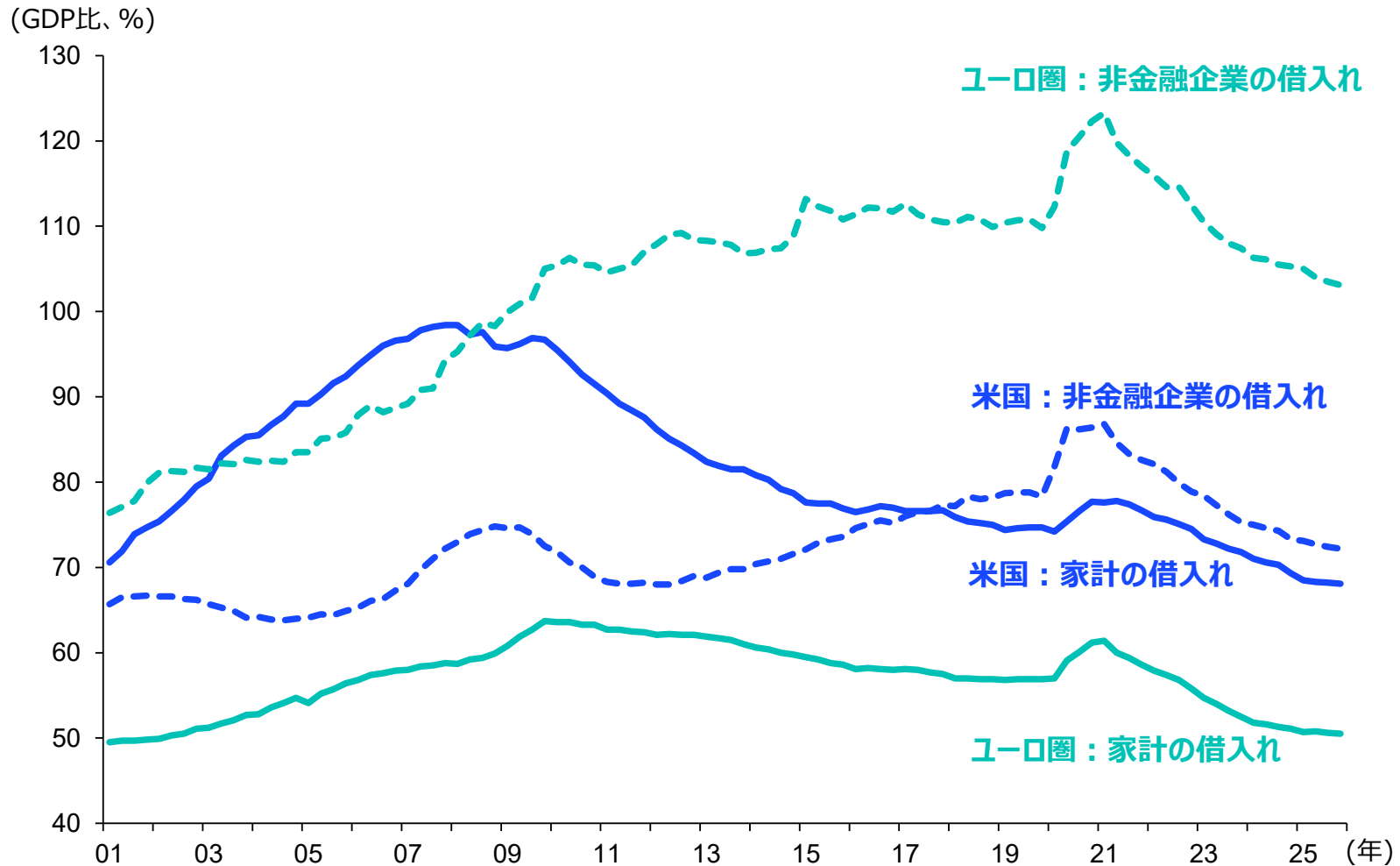
今後のグローバル株式市場シナリオ

主なシナリオ	想定されるグローバル 経済・金融環境の方向性		株式市場で想定される動き
イラン戦争が 終結	グローバルなインフレ率低下 と景気回復	⇒	★非AI関連株：銘柄選別を伴って、幅広いセクターに分散投資する動きが強まる。米国を含めたグローバル株式にバランスよく資金が流入 ★AI関連株：注目度はやや低下
イラン戦争に伴う不透明感が 継続	インフレ懸念と中銀のタカ派 化懸念が継続	⇒	★非AI関連株：引き続き新規資金が入りにくい。ただし、バイオなど中長期の成長が期待される分野に物色が広がる可能性も ★AI関連株：物色対象のローテーションを伴って、引き続き新規資金が流入

(出所) ブルームバークよりインベスコが作成

欧米における信用サイクルはAI需要もあって今後拡大局面入りし、 中期的な景気拡大を支えるとみられる

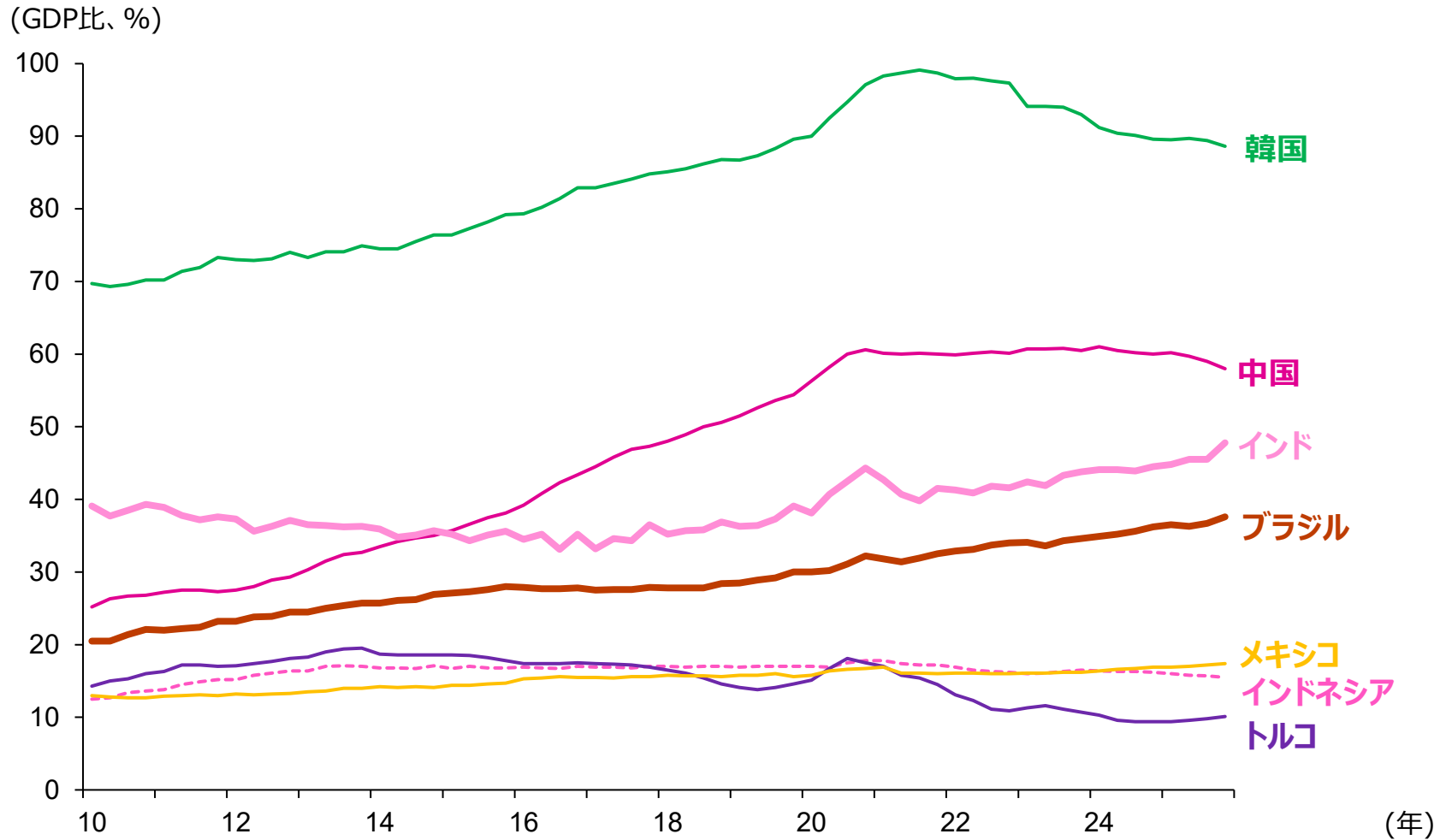
米国・ユーロ圏：家計や非金融企業の借入れ残高の推移（対GDP比）



(出所) BIS資料よりインベスコが作成

インドとブラジルでは、今後、家計の借入れ拡大による恩恵が期待できる

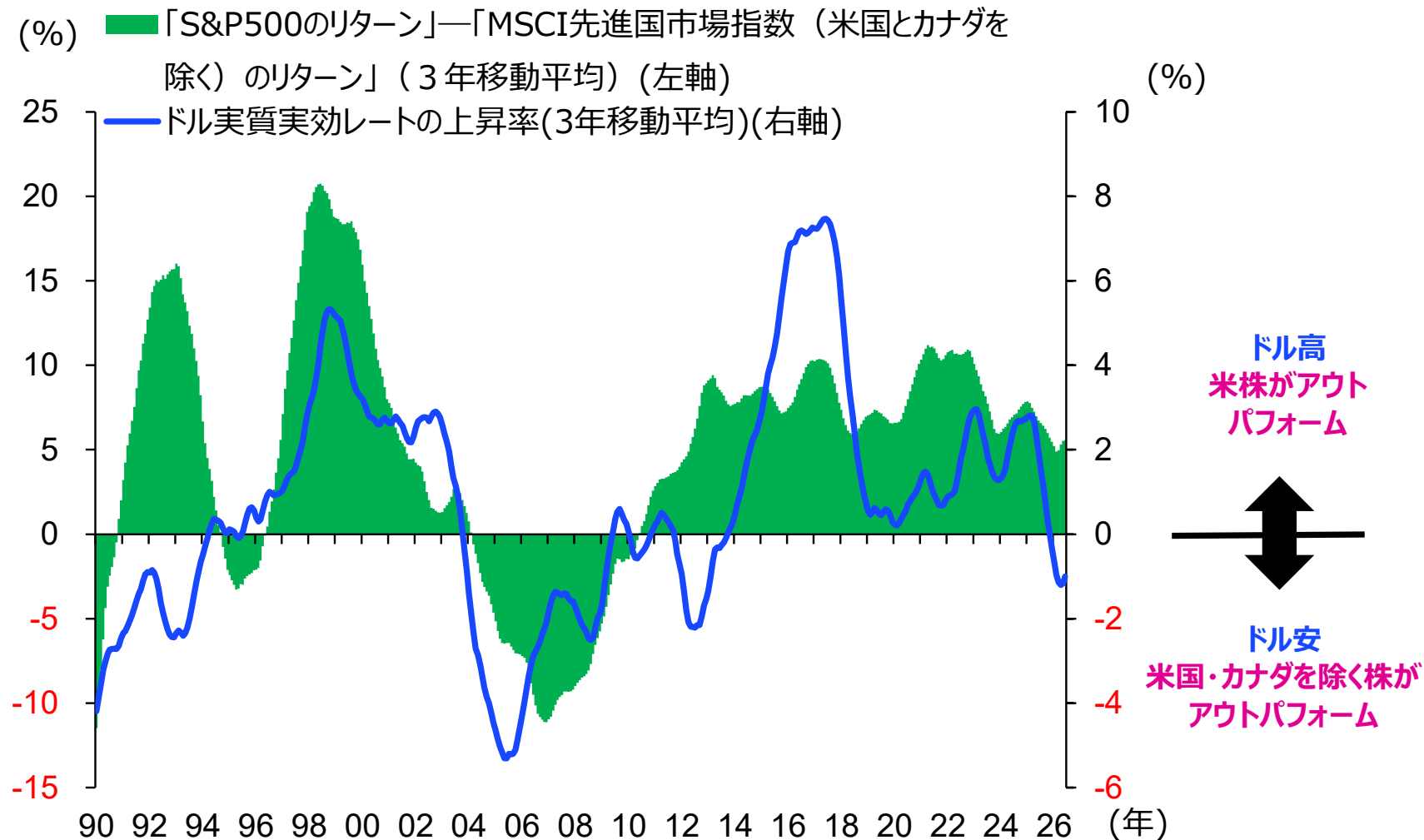
主要新興国：家計の借入れ残高の推移（対GDP比）



(出所) BIS資料よりインベスコが作成

ドル安になれば、米国以外の先進国株には追い風

米国・カナダ以外の先進国株式とS&P500のリターンを比較



(出所) CEICよりインベスコが作成

当資料ご利用上のご注意

本書は情報提供を目的として、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（以下、「弊社」といいます。）に属するグローバル・マーケット・ストラテジスト（以下、「作成者」といいます）が作成した資料です。本書は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。本書は、金融商品取引契約の締結の勧誘資料はありません。本書に記載された一般的な経済、市場に関する情報およびそれらの見解や予測は、作成者の資料作成時における見解であり、いかなる金融商品への投資の助言や推奨の提供を意図するものでもなく、また将来の動向を保証あるいは示唆するものではありません。また、当資料に示す見解は、インベスコの他の運用チームの見解と異なる場合があります。本文で詳述した本書の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。当資料について事前の許可なく複製、引用、転載、転送を行うことを禁じます。

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号

加入協会 一般社団法人資産運用業協会
日本証券業協会

MC2026-094